

平成17年度 教師海外研修（派遣国：フィリピン）実践報告書

群馬県邑楽郡明和町立明和中学校
 小山靖弘

タイトル：グローバルな文化や社会にふれ、自己の生き方を考える

～フィリピンの文化や社会、国際協力活動を知ること～

実践教科：総合学習の時間（ふれあいのタイム）（時間数：5時間）

対象生徒・学年：中学3年生

対象人数：37人

カリキュラム案

(1) 実践の目的

少子高齢社会のもと、人口が減少に転じ始めた日本。今後はさらに人口が減少していき、様々な分野への外国人の流入という国際化の流れがますます進み、また、海外で仕事をする人や生活する人も増えていくと思われる。このようなことから私は、将来の日本を見据え、未来の日本の教育のビジョンを考えたとき、「グローバルな視点や考えをもち、よりよい国際社会を築いていける人間を育成していきたい」という思いを持っている。

本研修で見て聞いて感じてきたフィリピンの文化や生活、国際協力活動の現状について、写真や実物、教師の話を通して具体的に生徒に伝えたい。そして、今回の授業実践が生徒の意識や視野を自己の周りや日本だけでなく、世界の国々に向けさせるきっかけとなり、自己と世界の国々を身近に感じ、自己の生き方を考えるきっかけになってほしいと考えている。

以上の考えをもとに、具体的な実践の目的を以下に設定した。

- ①フィリピンという国に興味関心を持ち、フィリピンの文化や社会、国際協力活動を理解する。
- ②日本とフィリピンの社会状況をふまえながら、両国のよさに気づき、また課題や問題を見つけ、国際的な課題や問題と自己の生き方を結びつけて考えることができる。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
【1限目】（導入） フィリピンってどんな国？ ＊フィリピンについて知り、興味や関心をもつ。	(1)フィリピンについて知っていることや一般事情（面積、人口、言語など）について予想させ、実情を伝える。 (2)フォトランゲージを使って、フィリピンについて説明する。 (3)架け橋アンケートを実施する。	・ワークシート ・架け橋アンケート ・フォトランゲージ ・拡大白地図 ・拡大フィリピン地図
【2限目】（展開Ⅰ） フィリピンの文化に触れる ＊聴いて、見て、触って、食して、フィリピンの文化を感じる。 ＊フィリピンについて、感じたイメージを話し合う。	(1)フィリピンで収集してきた貨幣や文化的な食べ物、道具を使って、質問したり、体験させたり、説明する。その後、感想を発表する。 (2)フォトランゲージを使ってグループディスカッションをする。	・ワークシート ・紙幣と貨幣・帽子 ・スイカジュース ・トマトケチャップ ・マロン、バッグ（布） ・リサイクルバッグ ・バナナチップ2種 ・ドライマンゴ、マンガ ・フォトランゲージ
【3限目】（展開Ⅱ） フィリピンの学校や生活の様子、国際協力活動を知る ＊学校や生活の様子、国際協力活動をしている日本人について知る。	(1)「学校と生徒」「生活の様子」「国際協力活動」について、研修で撮ってきた写真を見ながら話を聴き、感じたことを記入する。 (2)フィリピンの生徒（15～17歳）に実施したアンケートの結果を発表し、感想を発表する。	・ワークシート ・アンケート結果 ・ノートパソコン ・プロジェクター

<p>【4 限目】(展開Ⅲ) フィリピンの生活や社会問題にふれる * 宗教問題の紛争や差別、貧困生活などの、日本には無い社会問題があることに気付かせる。</p>	<p>(1) ビデオを視聴しながら感じたことのメモをとる。 『アジアに生きる子どもたち お母さんに会いたい～フィリピン・ムスリムの兄と妹』</p>	<p>・ビデオ ・ワークシート</p>
<p>【5 限目】(まとめ) フィリピンの生活や社会問題から自己の生き方を考える * 4 限目の授業を受けて、自己の生き方に迫る。</p>	<p>(1) ビデオの解説をする。 (2) ビデオについて感想を発表する。 (3) 自己の生き方についての作文を書く。</p>	<p>・作文用紙</p>

授業実践

1 校時

テーマ	フィリピンってどんな国？	
授業内容	生徒の反応・生徒の考え	
<p>(1) フィリピンについて知っていることや一般事情(面積、人口、言語など)についてクイズ形式でワークシートに記入し発表させ、答えとして実情を伝える。</p> <p>(2) フォトランゲージ(郊外の生活や学校など8枚)を使って、フィリピンの一般的なことを説明する。</p> <p>(3) 生徒間交流のためのアンケートを実施する。</p>	<p>最初フィリピンについて知っていることを聞くと、答えは「南国」や「バナナ」くらいであり、一般的なことはほとんど知らない。島の数や言語の多さ、お金の価値などについて教えると生徒たちはかなり驚いていた。母親がフィリピン人の生徒がいて、ジープニーを知っていて発表してくれ、話が盛り上がった。生徒は初めて聴いて見る世界に興味を持っていた。フォトランゲージの感想の中には、「使わなくなった布団を送ってあげたい」という声もあった。</p>	
〔所感・反省点〕	<p>一般事情について予想させることで、男子を中心に授業が盛り上がった。フォトランゲージは効果的で、話を聴く多くの生徒が自分の知らないフィリピンという国に興味を持っていた。</p>	

2 校時

テーマ	フィリピンの文化に触れる	
授業内容	生徒の反応・生徒の考え	
<p>(1) 実際に体験する(見て、触って、食す)。全員に1ペソ配る。折りたたみ帽子やマロンについて何に使うか質問する。実際に使い方を説明する。リサイクルバッグや布バッグ、マンガの説明をする。グループに分かれ、バナナケチャップやバナナチップ、スイカジュース、ドライマンゴを食す。感想を発表する。</p> <p>(2) グループディスカッションをする。6つの各グループに4枚の写真(①マニラ市内の風景、②貧しい生活の様子、③学校の様子、④文化的な内</p>	<p>1ペソのコインを全員に配ると物珍しそうに見ていて、お守りのように大切に扱っていた。初めて外国のお金を触った生徒も多い。生徒が一番喜んでしたのは、スイカジュースやバナナケチャップ、バナナチップを試食したときであった。今まで味わったことのない味に驚き、「おいしい!」や「ちょっと…」、「フィリピンの人はこんなもの食べているのか」という声が上がった。</p> <p>グループディスカッションでは、バログ(羽化直前の卵)や子どもが物売りしている写真に大きな反応を示していた。また、生徒たちは田舎の学校を想像していたようでマニラ市のビルやきれいな学校に驚いていた。</p>	

容)を配り、感じたことを出し合う。
〔所感・反省点〕 フィリピンで多くの食べ物や物を収集しておいたので、授業にとっても役に立ち、生徒は興味を持ってくれた。文化的な音楽や衣装、道具などもあるとよかった。グループディスカッションの時間が少なくなってしまう、また写真も大きく印刷しておいたほうがよかったので改善したい。

3校時

テーマ	フィリピンの学校や生活の様子、国際協力活動を知る
授業内容	生徒の反応・生徒の考え
(1)フィリピンの『学校と生徒』『生活の様子』『国際協力活動』について、研修で撮ってきた写真をプロジェクターで写しながら各テーマに沿って話を進め、生徒は思ったことや考えたことをメモする。	ワークシートから生徒の感想を見ると、『学校と生徒』では「日本と比べても設備が変わらない」や「生徒が多くて日本と反対なんだ」という感想があった。『生活の様子』では、「貧富の差が大きい」や「食べ物にあわなそう」、「ビルとかの建物があって驚いた」などの感想があった。『国際協力活動』では、「思ったよりいろんなところで日本人が活躍していた」や「日本が酪農で国際協力していることがすごいと思った」、「人の役に立つことは大変だと思い、協力していてすごいと思った」や「募金をしたい」などの感想や意見が出てきた。
(2)フィリピンの生徒(15~17歳)のアンケート結果を公表し、生徒たちの考えに触れて違いを考える。	
〔所感・反省点〕	各テーマでいろいろな感想や考えが出てきてよかった。しかし、話中心の授業であったので、反応があまり無い生徒もいた。話の中で質問やクイズなどアクセントを入れて、生徒が考えることができるような場面を入れるべきであったと感じている。

4校時

テーマ	フィリピンの生活や社会問題にふれる
授業内容	生徒の反応・生徒の考え
(1)ビデオを視聴 『アジアに生きる子どもたち お母さんに会いたい〜フィリピン・ムスリムの兄と妹』 ビデオを見ながら、メモを取る。	真剣に視聴していた。ビデオの内容は、今まで担任の話で聴き、写真で見てきたフィリピンと違い、ミンダナオ島やバギオ地域の話なので、生活様子の違いに驚いていた。生徒によってビデオを見る視点がいろいろあったと思うが、映像の中の「働いている子どもたち」や「生きることに一生懸命な人たち」に考えさせられている様子であった。
〔所感・反省点〕	宗教紛争の話は生徒にとって難しい問題であり、理解していた生徒はほとんどいなかった。しかし、日本ではほとんど見られない現実「子どもが働いている」や「生きていくために一生懸命な子どもや大人」、「家族で助け合いながら生活している家族愛」からいろいろな感じてもらえれば、ビデオを見た意味があると思っている。

5校時

テーマ	フィリピンの生活や社会問題から自己の生き方を考える
授業内容	生徒の反応・生徒の考え
(1)ビデオの補足説明をする。フィリピンだけでなく、世界には様々な生活や社会問題を抱えた国があることにも触れる。	感想では、「なぜ子どもが働かなくてはいけないのか」や「厳しい現実の中で生活していると思った」などの意見が多数出た。自己の生き方については、「自分が何かできないか考えさせられた」や「日本での生活は本当に豊かであると思った」、「身近なことから世界を考えていきたいと思う」などの意見がでてきた。
(2)ビデオについて感想を発表する。	
(3)自己の生き方についての作文を書く	

く。

〔所感・反省点〕

生徒たちは今まで見たことのないフィリピンの現実を見て、考えさせられていた様子が見られ、ビデオを見せた意味があったと思う。今回の授業でフィリピンの社会と生活の現実を自己の生き方と結びつけて考えられた生徒がいてうれしかった。

授業実践を通して

「まずはフィリピンに興味をもってもらおう」というところからスタートした授業。興味から社会的な問題へ、そして世界に視野を広げ自己の生き方と結びつけていけるよう、発展的になるよう授業を組み立てた。授業後「もっとああしておけばよかったな……」と思うことも多々あったので、今後生かしていきたい。様々な機会で、子どもたちに日本で生きるということから飛び出し、『世界的な視点』という感覚をもっと広められるよう努めていきたいと思います。

使用教材の一部

ワークシート

フィリピンについて知ろう!

1. フィリピンの位置がどこにあるかを地図で示せよ!



2. フィリピンに関する質問に答えよ!

質問	回答	出来
1. 首都	マニラ	
2. 最大の島	ルソン	
3. 最大の都市	マニラ	
4. 最大の産業	観光業	
5. 最大の輸出品	バナナ	
6. 最大の輸入品	機械	

3. フィリピンと日本の関係について調べよ!

グローバル社会や文化の違い、自己の生き方を考える

フィリピンと日本の文化や生活の違いを比較し、自己の生き方を考える。

1. フィリピンと日本の文化や生活の違いを比較し、自己の生き方を考える。

2. フィリピンと日本の文化や生活の違いを比較し、自己の生き方を考える。

3. フィリピンと日本の文化や生活の違いを比較し、自己の生き方を考える。

4. フィリピンと日本の文化や生活の違いを比較し、自己の生き方を考える。

5. フィリピンと日本の文化や生活の違いを比較し、自己の生き方を考える。

6. フィリピンと日本の文化や生活の違いを比較し、自己の生き方を考える。

フィリピンと日本の文化や生活の違いを比較し、自己の生き方を考える

1. フィリピンと日本の文化や生活の違いを比較し、自己の生き方を考える。

2. フィリピンと日本の文化や生活の違いを比較し、自己の生き方を考える。

3. フィリピンと日本の文化や生活の違いを比較し、自己の生き方を考える。

4. フィリピンと日本の文化や生活の違いを比較し、自己の生き方を考える。

5. フィリピンと日本の文化や生活の違いを比較し、自己の生き方を考える。

6. フィリピンと日本の文化や生活の違いを比較し、自己の生き方を考える。

日本とフィリピンの架け橋アンケート

1. 日本とフィリピンを架け橋する活動について、どのような活動が行われているか。

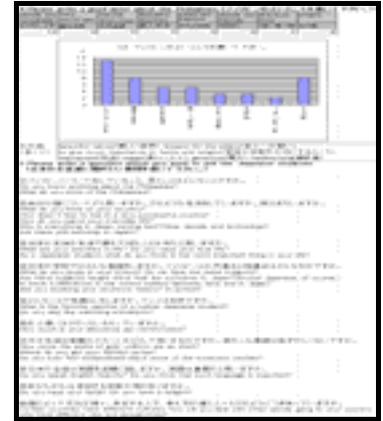
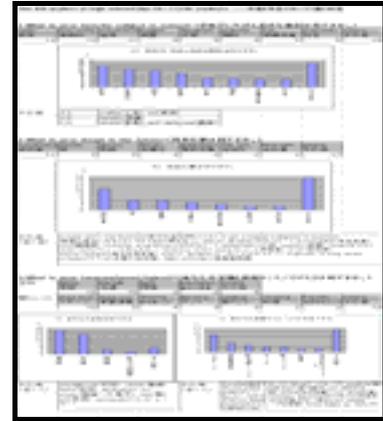
2. 日本とフィリピンを架け橋する活動について、どのような活動が行われているか。

3. 日本とフィリピンを架け橋する活動について、どのような活動が行われているか。

4. 日本とフィリピンを架け橋する活動について、どのような活動が行われているか。

5. 日本とフィリピンを架け橋する活動について、どのような活動が行われているか。

6. 日本とフィリピンを架け橋する活動について、どのような活動が行われているか。



フォトランゲージ8枚



3 限目に使用した教材の一部 (写真7枚)



平成 17 年度教師海外研修（派遣国：フィリピン）実践報告書

太田市立北中学校
中川 裕子

タイトル：私の見てきたフィリピン フィリピンの現状を知る

実践教科：家庭科（時間数：2 時間）

対象生徒・学年：3 年 1 組、3 年 2 組 2 クラス

対象人数：3 年 78 人

カリキュラム案

(1)実践の目的

フィリピンを訪れたことのない中学生に私の見てきた、フィリピンを紹介する。太田市よりも都会的な部分もある一方で、自分たちの今の生活からは考えられないような貧しい生活を送っている人たちもいる現状を知らせる。そして、ただかわいそうで終わるのでなく、自分たちはどう関わっていけるのかを考えさせる。また現地で地道に活動している日本人もいることに目を向けるようにし、フィリピンは遠い国・関係のない国ではなく、身近な国であることをつかませたい。

(2)授業の実践案

時間	学 習 内 容	教材・資料
導入	<ul style="list-style-type: none"> 世界地図でフィリピンの位置を確認する。 日本より南にあり、温かな気候雨季と乾季がある。8 月は雨季 飛行機で 4 時間くらい。時差は 1 時間 《質問 1》フィリピンの人たちは、どんな生活をしていると思いますか？ <ol style="list-style-type: none"> ①農業中心ののんびりとした生活 ②産業が発達し都会的な生活 ③どちらともいえない プリント配布 どれかを選んで○をつけ、簡単に理由も書く。 どれを選んだか挙手をし、その理由も発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界地図
	<ul style="list-style-type: none"> スライドを見る。 やしの木、田んぼ、山々のスライドとバナナの木が道の端にある田舎のまちのスライド→のんびりとした生活 次に <ul style="list-style-type: none"> 高層ビルが立ち並ぶ様子や設備の整った学校の写真を紹介する。さらに見てきたことを言葉でも補う。 生徒の中のフィリピンのイメージを変える。 《自分たちの町より都会なところもある》 次に <ul style="list-style-type: none"> 遠くに高層ビルが建ち、手前にバラックの立ち並ぶ写真の手前を隠して生徒に提示する。 《質問 2》手前にはどんな風景が広がっていると思いますか？ <ol style="list-style-type: none"> ①緑豊かな木々（環境を考えている） ②整備された線路や道路 ③対照的な家々 どれかを選んで挙手をしてもらおう。その理由も何人かに聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 高層ビルの建ち並ぶ写真 設備の整った学校の写真 遠くにビル手前にバラックのような家が立ち並ぶ写真

	<p>その後で、写真の全景を見せる。 ・緑の木々と歩道橋のある道路のスライド。</p> <p>次に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高層ビルの手前にバラックの並んでいるスライド。 この写真から気づくこと・わかることをプリントに記入させる。 貧富の差が激しい、裕福な人の生活と貧しい人の生活を衣食住で比べてみる。 ホームステイ先の様子を話す。 冷房の部屋・食べきれない食べ物・毎日取り替える服 貧しい人たちはどうか。考えさせる。自分たちは裕福な暮らしをしていることに気づかせる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・パヤタスの子供たちの写真を見せる。 《質問3》この写真はなんの写真かわかりますか？ ・都会的な生活が始まると増えていくものは？ ゴミ パヤタスのゴミの山の話 ・ここで暮らす人たちの生活の一端を話す。 ・ゴミの上で生活をし、ゴミから収入を得る。それも1日50ペソくらい。子どもたちも一緒にゴミの山へ行く。悪臭・ゴミの燃える煙による健康被害、満足に出来ない食事、崩落事故など 	・パヤタスの子供たちの写真
	《質問4》ここで生活している人たちを救う手立てはありますか？ 国としてできること 自分ができること	
	実際にここで活動しているJICAやNGOの様子も紹介する。 《質問5》感想を記入する。	・パヤタスで活動する人たちの写真

生徒の反応

3年1組と2組で授業を実践した。学校の自己研修の公開授業にあて、校長先生や研修関係の班員の先生方が授業を見学してくれた。1時間目に1組の授業を行ったが、貧しい人たちがいることはよくわかったといった状態で深まりがない授業だった。その後校長先生から授業のアドバイスをもらい、裕福なくらしと貧しい人の暮らしを比較する活動をいれ、自分たちは裕福な暮らしをしていることを認識させることで、次にみたパヤタスのスライドが自分と比べることができるようになった。また、他の先生からこのスライドがフィリピンのすべてと思われる危険性があるとの指摘をうけ、これは私の見てきたフィリピンの一部であること。全てではないことを生徒につたえるようにした。

☆フィリピンの生活

	3年1組	3年2組
①農業中心ののんびりとした生活	17人	11人
②産業の発達した都会的な生活	3人	1人
③どちらともいえない	9人	18人

- ①選んだ理由
- 温かい気候だから農業が盛んなのではないかな
 - バナナを作っているから
 - のんびりと楽しく生活していると思う
 - 裕福な国ではない
 - 発展途上国
 - 貧しい国で自給自足をしている
 - 発展途上国なので産業は発達していない

②選んだ理由 観光客がよく行くから
外国の企業が進出しているから
市場などがあるから

③選んだ理由 行ったことがないから
中心部は栄えていて、郊外はのんびりしていると思うから



生徒は高層ビルの写真を見て驚いていた様子。とくにホテルの窓からみえるビルの写真は、自分たちの住んでいる町よりもすごいという印象を与えたようだ。

☆ビルの手前に広がっているもの



	3年1組	3年2組
①緑豊かな木々	21人	6人
②整備された線路や道路	0人	4人
③対照的な家々	18人	20人

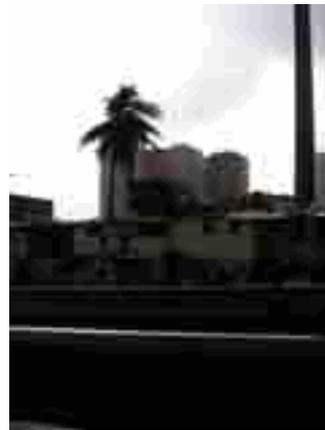
①選んだ理由 環境にも配慮して、ビルだけでなく緑もあると思うから
森が多い（以前テレビで見た）から
開発されているのは一部だと思うから
排気ガスが多いので木々を植えているのではないかと

②選んだ理由 こんなにビルがあり、産業も発達しているのだから道路なども整備されている

③選んだ理由 高層ビルだけに人が住んでいるわけではないから
写真のシチュエーションとしてそんな気がした
裕福な人もいれば貧しい人もいると思うから
貧富の差がありそうだから

黒く塗りつぶした部分をなくした写真を見せると、「道路と緑か」とちょっと予想していたものと違っていた。いう反応があった。

次に、後ろが高層ビル・手前がバラックの写真を見せて気づいた事を発表させたところ、「貧富の差が大きい」ことが実感できたようだった。



☆裕福な生活と貧しい生活とは、衣食住で比較

ホームステイ先の家の様子なども話をした。

自分たちの生活（裕福な生活）を振り返らせることで、自分との比較ができたように思う。

裕福な生活

冷房のきいた部屋
食べきれないほどの料理
コーディネートしている洋服

貧しい

寄り添うように立てられた家
3食まともに食べられないのでは
着る物もままならない
病気になっても病院へ行けない



都会的な生活が進むと何が増えるか？ — 「ゴミ」

☆パヤタスの現状を知る。



パヤタスのゴミの山には、生徒はかなりの衝撃を受けていた。分別されていないゴミ。そこを訪れた時の話は、実際に私が見てきたものだったので真剣な表情で話を聞いていた。ゴミの山で暮らす人たち。ゴミから収入を得る生活。まともにとれない食事。病気になっても病院にいけない。悪臭・煙で環境が良くないこと、崩落事故など……。

☆この人々を救う手立ては何かあるか？

国として出来ること・・・自衛隊の派遣、食料援助、子供たちの施設の建設、

自分たちで出来ること・・・募金・ボランティア

フィリピンの国もゴミのリサイクルに力をいれること、などの意見がでた。



そのあと、実際に日本も医療活動や栄養指導・自立支援に協力していることや、若者たちがボランティアで活動していることを紹介した。生徒はそのことにも驚いている様子だった。

生徒の感想を読むと1組よりも授業を改善した2組のほうに深まりが感じられた。ただ誤った見方をしている生徒もいるので、次の時間に補足説明をしておく必要を感じた。



パヤタスの子どもたちは、かわいそうだというだけで終わらないように最後にこの写真を見せて、それでも子供たちは雨が上がるとこんなふうにはバスケットをしに集まってきて、みんなと同じようにスポーツを楽しんでいたことも紹介した。

終わりに

実際に行って見てきたことを伝えることは、生徒に直に伝わることを実感した。スライドの効果もあるがそのときに感じたものを自分の言葉で伝えることで生徒は何かを感じ取ってくれたのではないかと。授業後の感想の中にフィリピンへ行ってボランティアをしたいという生徒や募金活動に協力したいと書いていた生徒がたくさんいたが、今できることも大切であるが、これからの将来の中でこの授業を通して学んだことが生きてくれるといいと思う。

平成17年度 教師海外研修（派遣国：フィリピン）実践報告書

群馬県太田市立生品中学校
長山 満

タイトル：他国から学ぶ
実践教科：道徳（時間数：3時間）
対象生徒：中学2年生
対象人数：2年4組 36人

カリキュラム案

(1) 実践の目的

世界の国々が直面する問題から、「自分としてできること」を考えて欲しいと思った。その内容は「自分たちがその国に対してできること」というような単純なものではなく、その場所で自分自身が生活していた場合、「自分としてできること」は？ 日本で生活していながら世界の役に立つために「自分としてできること」は？ どんな困難にあっても、その困難を切り開くために「自分としてできること」は？ 自分の夢を実現するために「自分としてできること」は？ 自分の幸せをほんのちょっと誰かと分かち合うために「自分としてできること」は？等々自分や周りの幸せを自らの手で切り開いていくような考え、行動しようとする気持ちを育みたい。

その中で、単に「世の中には貧しい国があって、かわいそう」というもので終わるのではなく、地道に活動している日本人がいること、一見貧しい生活でも、人々は幸せを感じて前向きに生きていることを知らせ、他国から学び、自分自身の生き方も前向きで豊かなものにしていくような気持ちを育てたい。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 日本との共通点や大都会の様子などを紹介すると共に同じアンケート(架け橋アンケート)への回答を比べ、フィリピンへの関心を持たせる。	○フィリピンのスライド上映と解説 フィリピンの学校の様子、大都市のビルディング、道路の様子、ジープニー、トライシクル、マーケットの様子、一般の家庭の様子、稲作地帯の様子、現地日本企業での様子、JICAの活動の様子 ○架け橋アンケートの紹介・比較 自分たちのアンケート結果と、フィリピンの子ども達と同じアンケートへの回答結果の比較、教科や外国語の扱い、宗教について解説を入れる。 ○フィリピン側からのアンケート 自分たち自身を見つめ直せるようなものをピックアップ	(1) フィリピンで収集した写真 (2) 架け橋アンケート集計結果 (3) フィリピン側からのアンケート (4) 表示装置 (PC、液晶プロジェクターなど)
2 限目 豊かさの裏側、パヤタスの紹介。日本でも広がりかけている貧富の差についても知る。	前回のおさらいと、別の1面の紹介 近代的都市とそれに隣接するように建つバツラク住宅、パヤタスのゴミ山、そこで自立支援活動をするNGO、それでも明るく過ごしている人々、にぎわう近くのマーケット	(1) フィリピンで収集した写真 (2) プリント (3) 表示装置 (PC、液晶プロジェクターなど)

3 限目 貧しい子ども達が置かれている、いかんともしがたい状況を知り、自分ができることを考える。	○ビデオ視聴 学校に行かず、家族を養うために働かざるを得ない子ども達の現状を知り、自分たちだったら、そんな状態から抜け出すためにも勉学が大切なことを知ってほしい。	(1)NHK の番組のビデオ (2)表示装置 (プレイヤー、液晶プロジェクターなど)
--	---	---

(3) 生徒の反応

1 限目の授業では外国の生活について興味を持って写真を見ていた。バナナの国というイメージとは異なり、大都会の風景や、あまりにも自分たちの住む地域の景色に似た田園風景に驚きと親近感を持ったようである。

また、フィリピンからの質問には、普段当たり前すぎて考えもしないであろうことをピックアップしたので、解答に四苦八苦していた。自分たちを見直すいい機会になったように思う。

2 限目の授業は、1 コマ目から時間が空いたこともあり、前回紹介したのと違う「別の 1 面」がある、という認識よりも、「貧しい人たちがいることがわかった。それに比べたら自分たちは幸せだ」といった状態であった。

始めに「あなたは幸せですか？ YES / NO のどちらかに○を」という単純な質問をしたが、NO は 5 名、中間に○が 1 名であった。多くの生徒は「自分たちは幸せなんだ。でも……」という感情を持っているようである。

中には「他の国ではこのような人々がまだ多くいると知った。もっと世界に目を向けて生活しなければいけない」「普段何も考えずにいたが、ものをもっと大切にしなければいけないと思った」と言う意見もあった。

3 限目の授業は NHK で放映された「お母さんに会いたい～フィリピンムスリムの兄と妹～」を視聴した。学校に行かず、家族を養うために働かざるを得ない、子どもの力ではどうすることのできない状況で家族離ればなれで生活する家族の話であるが、そんな状況から抜け出すために、勉強をすること、特技、あるいは手に職を身に付けることも 1 つの大きな手だてであるということに気づいて欲しいと思った。ビデオの内容は中学 2 年生には少し難しいものであったようである。

終わりに

これらは自分が見てきたほんの一部のことであり、もっと違う現実や世界が沢山あるはずである。ぜひ子どもたちには、将来自分の目で見、肌で感じ、体で体験し、何か行動して欲しいと思う。

フィリピンの 3 年生からの質問 (8～9 歳)

- ①日本の文化やお祝い事をする行事はどのようなものですか？
- ②日本はどのような所ですか。美しい場所といたらどこですか？
- ③あなた方の好きな食べ物は何かですか。箸を使うのはなぜですか？

フィリピンの 5 年生からの質問 (10～11 歳)

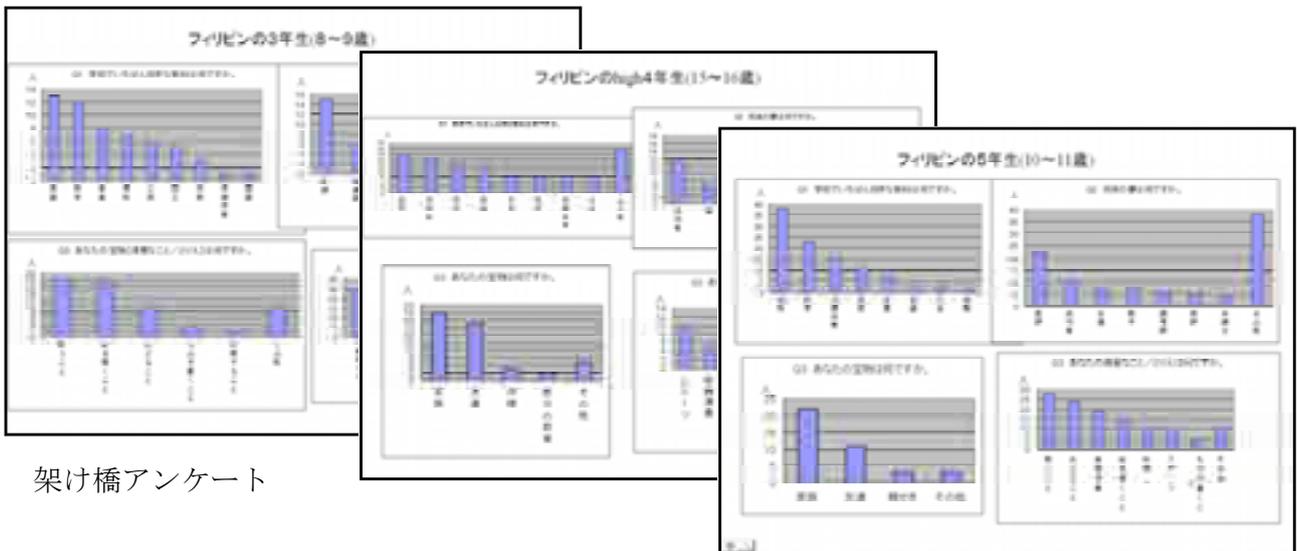
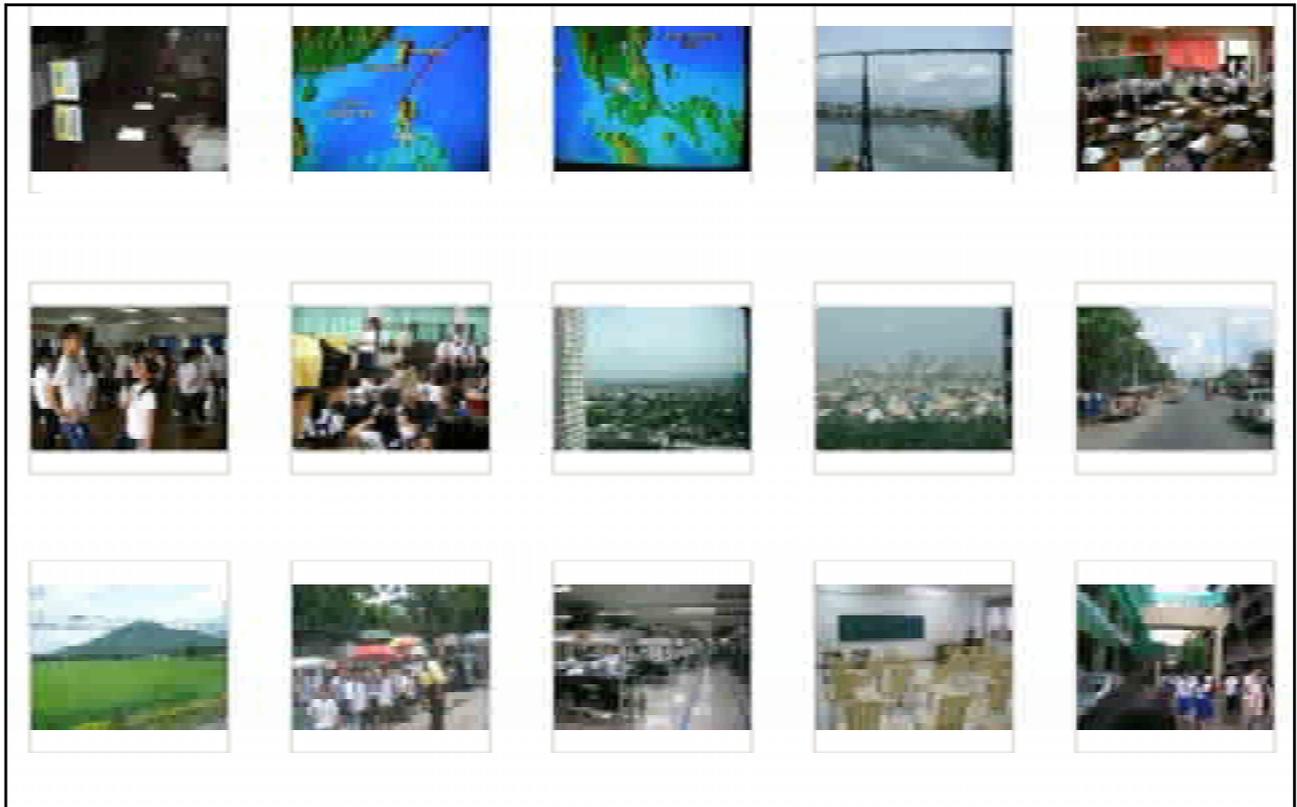
- ④日本には美しい場所がたくさんありますか？ 1 番はどこですか。休暇で訪れるにはよい国ですか？
- ⑤日本の文化や伝統はどういったものですか？ あなた方が好んでする伝統的な行いは何ですか？
- ⑥日本の国民的英雄は誰ですか？
- ⑦どうして日本は優れた技術をもった豊かな国になったのでしょうか？ 政府の働きはどのようなか？

フィリピンの high 4 年生 (15～16 歳)

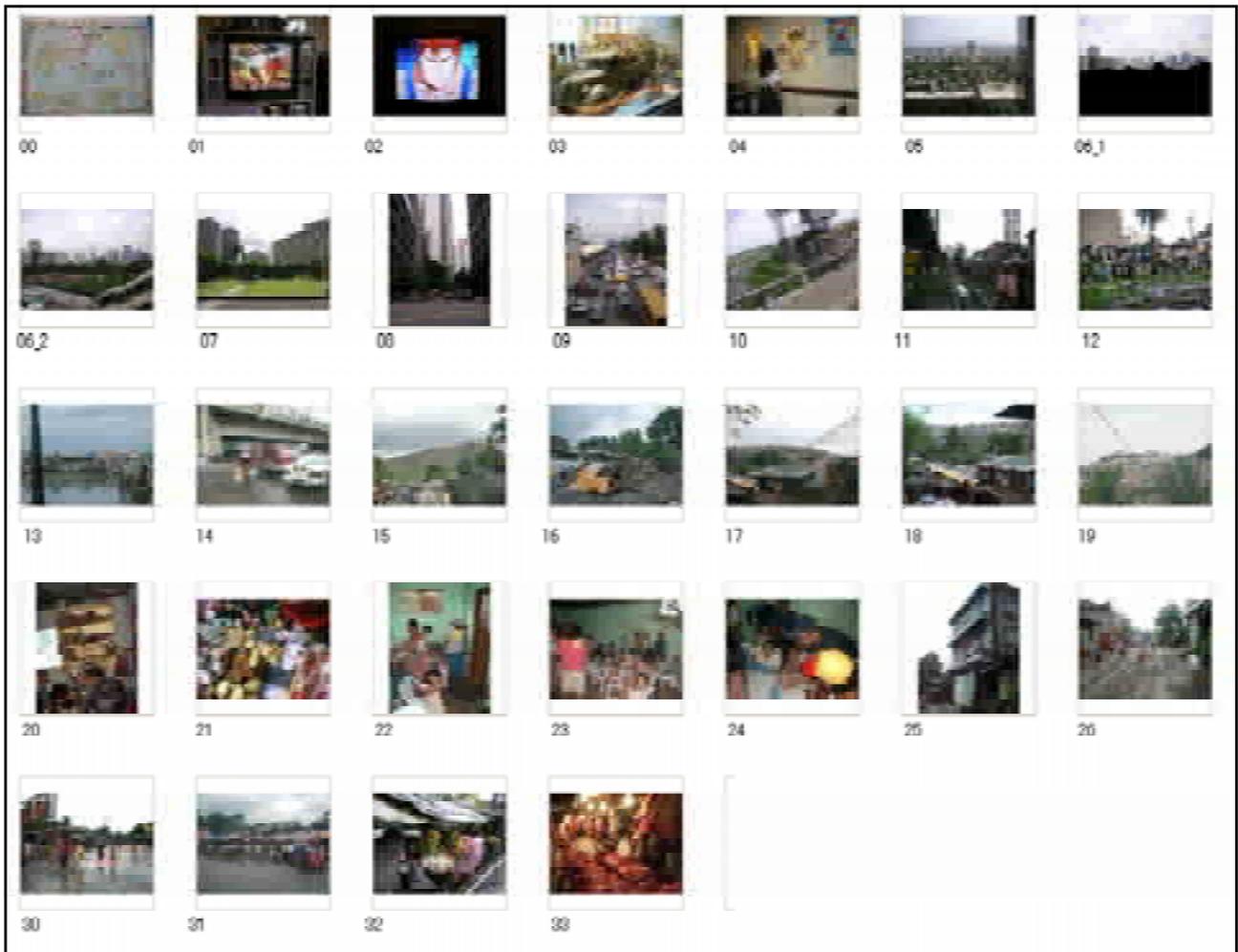
- ⑧日本の生徒の生活で最も大切なことは何だと思えますか？
- ⑨どんなことで気晴らしをしますか。アニメは好きですか？
- ⑩女子生徒は制服のスカートはどうして短くするのですか？ 変わった服装は恥ずかしくないですか？
- ⑪日本の生徒は英語を流暢に話しますか？ 英語は重要だと思えますか？
- ⑫あなたがたは信仰する宗教や神がありますか？
- ⑬国によって文化は様々。来日する人で、考え方が違う人々とどのようにつきあっていますか？

資料

① 1限目で利用した写真。大都市や学校の様子、日本企業や、現地で根づいている日本語での「5S(整理・整頓・清潔、等)の精神」について



② 2限目で利用した写真。次ページの写真の説明の番号とは一致していません。



③ 3限目で利用したビデオ(NHKの紹介ページより)

BSドキュメンタリー

「アジアに生きる子どもたち お母さんに会いたい～フィリピン・ムスリムの兄と妹～」

この番組は、武力闘争の絶えないフィリピン南部のミンダナオ島から逃れてきたイスラム教徒の10歳の少年と妹の物語です。北部の町で袋売りをして2年間、幼い兄妹は、故郷の母親に会っていません。その母親が入院したと聞き、2人は、船代を貯めようと必死に働きます。「お母さんに会いたい」その願いのために・・・差別や偏見、故郷を離れた寂しさの中、懸命に生きる兄と妹の半年間を追いました。宗教紛争にまきこまれ、数々の苦難に襲われる二人の兄妹の心打つ映像は、将来への希望の光を伝えています。

写真の説明

- ①フィリピンは色々な言語を使っている。
小学生から英語を学び、共通語としている。
だから何か国語かを話すのは珍しくなく、日本語を学ぼうという人たちも。
- ②日本のアニメもこんな風にテレビでやっている。日本製品も多いし、企業も行っていて日本は身近な存在かも。
- ③でも、博物館にはこんな展示も。日本が攻めてきて、フィリピンを占領した様子を表している。大変みにくい形相でつくられている。
- ④学校の中にも戦争を考える部屋があり、核兵器のことも書いてあるけれど、日本の占領のことも書かれている。日本はあまり戦争に関してふれるところはないね。
- ⑤フィリピンの様子
- ⑥緑の大都市、と言う感じかな？
- ⑦さて、このビルディングの手前は何でしょう？ → 緑豊かな公園
- ⑧車は慢性的な渋滞で、非常に空気も悪いです。
- ⑨近代的な都市の一步わき、鉄道沿いの風景は何でしょう？ → バラック街
- ⑩鉄道の脇にはこんな住宅……
- ⑪川のわきにも……
- ⑫仕事を探すのが大変で、1日200ペソ。400円くらいの収入しかない場合も。
- ⑬交差点で止まった人にお菓子を売っています。
- ⑭かたや大富豪、かたやこれらの住宅。大変格差が大きく、それがほんの近くにある都市です。
いわゆる「豊かな生活」で必ず問題になるものって何でしょう？
- ⑮大気汚染を防止する観点から、フィリピンではゴミの焼却が禁じられています。
- ⑯すると、どこかに捨てなければならぬわけで、その集積場のひとつがパヤタスというところです。
- ⑰これがうめて、土をかぶせたところ。巨大な山になっています。
- ⑱近くにはゴミの中から何か廃品を回収して生計を立てている人たちがあつまります。
- ⑲これが現在ゴミが運び込まれている山。手前が住宅です。都市のビルディングとは大違いですね。
- ⑳山の上に人が見えますね。ゴミの中から金属やら売れそうなものを探している人たちです。
- ㉑山からは大変な臭いが発生したり、ガスで周囲がくもったり、ゴミが崩れて人が巻き込まれたり……。
- ㉒なので、最近では許可を得た人しか入ることはできません。
- ㉓こんな過酷なところですが、1日やはり200ペソくらいにしかありませんが、それ以外に収入の道がありません。
- ㉔こんな場所はなぜなくなるのでしょうか？
- ㉕土地を貸している地主は貸すことによって莫大な富を得、許可を出すことによって許可料や入場収入がある。そして、みんなが出すゴミを捨てる場は必要だし、ここでしか、収入を得られない人もいる。
- ㉖見学に行きましたが、もちろん現場・危険なところまでは近づけません。フェンス近くまで行って先生の見たごみのほとんどは普通のビニール袋やペットボトル、でした。例えば……。
- ㉗ NGO などはここに行って、ここに暮らす人がゴミ拾い以外の収入を得られるように、裁縫を教えたり、その販売方法を教えたり、自立支援をしています。赤ちゃんへの栄養補助なんてのもしています。
- ㉘しかし、前回のアンケート同じように、日本人とフィリピン人と同じ質問をした結果があります。「今の自分が幸せですか」に対して、Yesは フィリピン人が90%なのに対して、日本人は50%。
- ㉙たしかにこれらの写真は、平日なのにこれだけの子どもが学校に行っていない・行けないことを表し、また、マーケットも清潔とは言えない状態なのかもしれませんが、こうやってこのゴミ捨て場のわきにもバスケットボールコートがあり、たくさん子ども達がいて、にぎやかなマーケットがあり……。
- ㉚実は日本も格差がどんどん広がっている、と言う人もいます。何を学べるか？自分自身は世界に対して何をすべきか？自分自身は自分のために何をすべきか？

平成 17 年度教師海外研修（派遣国：フィリピン）実践報告書

栃木県立宇都宮北高等学校
岡 保宏

タイトル：発展途上国とは ～フィリピンを通して～

実践教科：総合的な学習の時間（時間数：2 時間）

対象生徒・学年：1 年

対象人数：42 名

カリキュラム案

(1)実践の目的

7 月に行った事前授業後のアンケートの結果から、フィリピン＝「バナナの国」「貧しい国」というイメージしか大部分の生徒は持っていないということがわかった。しかし、私が自分で実際に見たフィリピンはそうした一般的なイメージとはだいぶ違っている面も多々あった。そうしたフィリピンの実際というものを生徒に示して少しでも生徒の正しい理解を図りたい。その上で、現状を改善するためにはどういった問題を解決する必要があるのか、そのためには自分は先進国に暮らす日本人としてどのようなことができるのかを意識できるようにさせたい。

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目	(1)導入（研修の行程表を見せて、自分がフィリピンで行ったことについて簡単に説明する） (2)フォトランゲージの説明（一部空所のある写真を渡して、空所に何が入るか想像させる） (3)フォトランゲージの続き（生徒を3～4 人のグループに分けて空所に穴埋めをさせる、そのあと書き入れた内容を発表）	(1)研修行程表 (2)フィリピンで収集した写真 (3)投影装置（PC、スクリーン） (4)フォトランゲージ用写真
2 限目	(1)フィリピンのスライド上映と解説（街の様子、学校の様子、パヤタスの様子、農村の様子、JICA の活動の様子、および、フォトランゲージで使った写真の解説） (2)フィリピンのコンビニで買ってきたものについての説明（値段について：なぜ日本と比べて安いのか） (3)授業ふりかえりアンケート	(1)フィリピンで収集した写真 (2)投影装置（PC、スクリーン） (3)フォトランゲージ用写真 (4)コンビニで購入した日用品

授業実践の詳細

1 限目

1 限目の授業では、行程表を見せながら、自分が行った研修について簡単に説明したあとで、フォトランゲージの活動を行った。現地で撮影した写真の中から、日本人の感覚ではちょっと変だなと思えるようなものを数枚選び出して、A3 版に拡大プリントして、「変な部分」を切り取って、4 人グループにした生徒のそれぞれのグループに1 枚ずつ渡した。そして、生徒たちは切り取られた部分に何が入るか想像し、実際にマジックペンで書き入れ、それぞれのグループが発表するようにした。大部分の生徒たちが興味を持って取り組んでいたが、同時に、空所に何を入れたらよいかわからない様子でもあり、書き入れるのにだいぶ時間がかかっていた。想像するということは意外に難しいことなのだと感じた。

書き入れたあと、グループごとに生徒は何を書き入れたかについて発表をした。



2 限目

2 限目の授業では、フォトランゲージで使った写真の解説を含め、フィリピンで撮影したたくさんさんの写真をスクリーンに投影させて生徒たちに見せながら、私が行った研修の内容、フィリピンの様子、私が実際に行ってみて感じたことなどを話した。生徒たちは興味を持って聞き、高層ビルが建ち並ぶ様子や、一部の人たちの裕福な暮らしぶりにはとても驚いている様子であった。生徒たちは、フィリピンの経済レベルは全て日本のそれよりも低いところにあり、人たちは皆、苦しい生活をしているという考えが強かったようである。

そして、私がフィリピンのコンビニエンスストアで購入したいくつかの日用品を見せて、生徒とのやりとりの中で、それらがいくらで売られているかを知らせた。生徒たちは単純にあまりの安さに驚いた様子であった。なぜそのように安価になるのか、安いコストで製品を作るということは、その生産に携わっている人たちにどういう結果をもたらすのかということに生徒が考えをめぐらせてくれればとの意図で行ったのだが、自分の説明が上手でなかったのと、少し難しい内容であったので、なかなかそこまで考えた生徒は少なかったようである。

最後に生徒に今回の授業の振り返りのアンケートに答えてもらった。生徒から出てきた主な意見は以下の通りである。

Q1. 今日の授業を受けて新たに知ったこと、学んだことは何ですか？

- ・貧富の差がとても激しい（特に豊かな部分に驚かされた）。
- ・街の中に日本と同じくらい豊かな部分ととても貧しい部分の両方があるということ。
- ・高層ビルがたくさんあることに驚いた。
- ・車の多さ（貧しくて自転車くらいしか乗らないだろうと思っていた）。
- ・警備員がたくさんいるということ。
- ・治安が悪い。
- ・物価が日本よりずっと安い。
- ・日本からたくさんものを輸入している。
- ・日本の車や店がフィリピンの街にたくさんあること。
- ・ゴミの山で生計を立てている人がいること。
- ・ゴミ問題が深刻であること。
- ・線路ぎりぎりの所に住んでいる人たちがたくさんいること。日本ではそんなこと考えられない
- ・人々が生活を楽しんでいる。

Q2. 今日の授業を受けてフィリピンに対するイメージがどのように変化しましたか？

- ・人々は皆貧しい人たちで、みんな苦しい生活をしていると思っていたが、豊かな暮らしをしている人もいて驚いた。
- ・ださいイメージだったが、すごいところもあるのだと見直した。
- ・森やジャングルがたくさんあるというイメージを持っていたが、車の量など日本と変わら

ないことに驚いた。

- ・貧富の差が大きいことは良くないことだと思う。
- ・治安の悪そうな国というイメージを持った。
- ・危険な国。ビルの多さや車の多さなど日本とあまり変わらないと感じた。
- ・日本の物がたくさんあることに驚いた。
- ・安全で温かく住みやすい国だと思っていたが、貧富の差があり、治安が悪い国というイメージを持った。
- ・ただ貧しい国と思っていたが、貧富の差が激しい国だと気づいた。
- ・暑くて森林ばかりの国というイメージから、高層ビルがあり、車も走っている国というふうに変わった。でも汚い国だと思う。
- ・自分の住んでいるところよりも都会だ。
- ・都会的なイメージになった。

Q3. 今日の授業を受けて、さらに知りたいな、学びたいなと思ったことは何ですか？

- ・ゴミの山をなくすにはどうしたらよいか。
- ・ゴミ拾いをするより、農作業をしたほうが良いのではと思うが、なぜそうならないのか。
- ・マニラの状況とパヤタスの状況。
- ・貧しい人たちの全体に対する割合。
- ・フィリピンの衛生事情・病気について。
- ・どうしたら貧富の差をなくせるのか考えようと思った。
- ・なぜ同じ国であれほど貧富の差があるのかを調べたい。
- ・貧しい人たちと豊かな人たちの生活の差。それを調べれば貧富の差の問題点原因が具体的にわかると思う。
- ・実際に行って自分の目で確かめたい。
- ・フィリピンの学校の様子・授業の様子。
- ・食文化・料理について。
- ・どんな仕事に就いている人が多いか？
- ・フィリピンの政治はどうなっているのか。
- ・フィリピンの GNP。
- ・1人あたりの車の台数。
- ・フィリピンにある日本の企業について。
- ・お金持ちの暮らしぶり。
- ・排気ガスによる大気汚染等フィリピンの環境問題について。

今回授業を受けた生徒で、海外旅行の経験のある生徒は少なくないが、ほとんど全てはリゾート地、もしくは、先進国へ行った経験であるので、今回の授業は生徒たちにとって衝撃的とまでいかななくても、十分に刺激的な内容であったと思う。ただ、私自身が実際に肌で感じたフィリピンもごくごくわずかな部分であり、「フィリピンはこういう国だ、こういうことが問題となっている」と自信を持って言えたわけではない。少しでも自信が持てるようには”限られた”実体験に加えて、様々なメディアを通じての入念な予備調査が大切なのだと授業者として強く感じた。